

令和6年度

戸田市教育研究集録

戸田市教育フェスティバル開催 **オンライン研修**

令和7年1月8日(水)、戸田市立教育センターにて「戸田市教育フェスティバル」を開催し、学校の教職員がオンライン会議システムによるリアルタイム配信を視聴するという形式で研修を行いました。

今年度はプラスティー教育研究所 代表 清水章弘 様をお招きし、子供に対して学習面でどのように向き合うべきかについて改めて考える機会をいただきました。

講演テーマ

「勉強のやり方」を伝えるために必要な視点



プラスティー教育研究所
代表 清水 章弘 氏

私の経営している学習塾では、「勉強のやり方を教える」と謳っていますが、より正確な表現をすると、「勉強のやり方を子供が自ら構築できるようになるために必要な支援をする」ことが私の塾で行っていることです。学校の先生が子供の指導にあたる際の一つのスタンスとしてヒントに

なるのではないかと思います、お話しします。

まず重要なのは、大人の役割は「大人を不要にすること」という視点です。大人が常に子供の横について教えるのではなく、「自ら学び続ける子供（自学力のある子供）を育てることが目標となります。そのために必要なのは、よい学習観を育むことです。最大の敵は「学習性無力感」—自分には無理だと思い込んでしまうことです。人間はいつからでも伸びる可能性をもちますが、経験から無力であると学習してしまうと、自ら学ぼうという意思が芽生えにくくなります。

学習性無力感につぶされずに、よい学習観を身に付けるためには、子供は「勉強のやり方を自ら構築」しなければなりません。これには大人の声かけが大きな助けとなりますが、子供にはタイプがあることを認識すること、自学力に対する正しい認識をもつこと、適切なタイミングで効果的な声かけを行うこと（学習コーチング）がポイントとなります。

つまり、子供の好奇心のもち方や学習タイプには個人差があり、それぞれのタイプに応じた声かけや学習

方法を提案することで、効果的な学習支援が可能となります。

また、自学力についても、「何も言わなくても一人で勉強を始める」「嫌いな教科も楽しそうに学び続ける」という理想像は現実的ではありません。むしろ、「声かけがあれば始められる」「嫌いな教科は何とか学び続ける」「サポートがあれば、失敗を重ねながらも8~9割は実行できる」という現実的な目標を設定すべきです。

自学力を高めるための学習コーチングは、「マイルールを作ること」と「作ったマイルールを実行すること」の「支援」です。マイルールを一から子供が考えることが難しい場合には、ルールを提案してあげることも必要になります。また、学習コーチングは信頼関係を構築していなければ成立しません。日々の何気ない声かけや授業中のやりとり、時間をとっての学習コーチングなどを行いながら、信頼関係をしっかり築いていくことが大切です。

日々の授業や業務に追われる中で、一人ひとりの子供に合わせた学習支援を行うことは容易ではないかと思えます。しかし、「やらされる勉強ほどつまらないものはない」という認識のもと、子供自身が自分の学び方を構築していけるような支援や声かけをしていただければと思います。

私たち民間教育事業者も、先生方と同じ目線で子供たちの未来を考え、支援を行っています。ぜひ、それぞれの立場でもっている知見を共有し、子供たちの学びをよりよいものにしていけたらと願っています。